

「ひまわりの血脈を追う」

ルーツ

座間の大地を覆い尽くさんばかりの勢いで一斉に咲き誇るひまわり畑。その噂を聞きつけ県外からも足を延ばしてくる来場者も増えつづけ、大風と並び、座間のもうひとつの顔となっています。でも、ここでひとつ疑問が浮かびます。このひまわりたちは、誰が植えているのでしょうか。もちろん自生しているわけではありません。管理された畑に咲いているのです。いったい誰が？「ひまわりまつり」を影で支える、ひまわりの育ての親というべき方にお話しを伺うことにしました。

ひまわりまつり

毎年座間・新田宿・四ツ谷地区と栗原地区の2会場で開催される「ひまわりまつり」。市花であるひまわりが、まるで絵に描いたように何万本も咲きほこる姿を目の当たりにすれば、何とも言い難い感動が胸に込み上げてきます。ひまわりのまち座間、として首都圏において定着しつつあります。写真スポットとしても大人気で、真夏にも関わらず来場者は2会場で7万人を超えています。

20年前に始めたひまわり栽培

ひまわり推進協議会の会長を務める農家の澤田富美雄さん(63)は、この祭りが形になる前からひまわりを育ててきました。65㎡(6500㎡)の畑を持ち、露地野菜のほかガラス温室ではイチゴやメロンなど1年を通じて育てています。市場に卸すだけでなく、直売も行い、毎年販売を楽しみにしてくれているファンもいます。そんな忙しい日々の合間をぬって、元は荒地対策として約20

年前に仲間と始めたひまわり栽培は、座架依橋のたもとの1000㎡の畑から始まりました。

5.5ヘクタール、55万本の規模

夏季の雑草対策、既存の農機で種まきが可能だったことから始めたひまわり栽培だったが、ちょうど梅雨時期に種まきを行うため、ぬかるみで機械が入れなかったり、ハトがまいた種を食べてしまったりとはじめは苦難があったそうです。それを乗り越え、現在は栗原地区・座間地区・新田宿・四ツ谷地区を合わせると5.5畝で55万本もの規模になりました。大人の目の高さですべての花が揃っているのは、長年の経験から得た工夫。種の種類、植える間隔などに気を配っているからなのでしょう。

知識と経験をフル活用

人が訪れるのはうれしいものの、「祭りの時期に開花を合わせるよう種まきのタイミングを考えることが一番の苦労」と苦笑い。農業知識と経験をフルに活用しながら、その年の降雨量や気温などを予測して行うその仕事は「農家仲間の協議会メンバーの協力があったこそ」なのだそう。悩ましい課題は約30人いる協議会メンバーの高齢化。でも「何も言わなくても通じ合えてそれぞれが動けるからこそ、この人数でできている」とも。「来る人の笑顔を楽しみにこれからも期待にこたえられるよう頑張るよ」とひまわりのような朗らかな笑顔を向けてくれました。

●座間市ひまわり推進協議会へのお問い合わせ

《事務局》さがみ農協管農センター内
TEL 046(251)0011
農業の知識、機械操作ができる方、平日でも活動に参加できる方など会の活動にご賛同いただける方を募集しています。

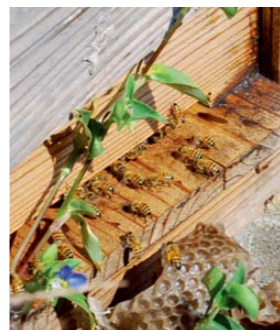
ひまわりまつり

座間の大地に咲く首都圏唯一 55万本

県下に誇る一面のひまわり畑と、地域団体による切花・農産物・特産品等の販売、各種催しもの等が行われる、「大風とひまわりのまち座間」を象徴する真夏のイベント。報道番組等の取材も行われ、県外からの来場者も多く期間中は合計7万人規模の来場がある。見どころはなんとといっても、大地を覆う広大なひまわり畑。各所に設置された展望台からの見晴らしは感動的。この景色の前では誰でも自然とカメラを構えてしまうこと請合い。良い写真が撮れたら、観光協会主催の「ひまわり写真コンテスト」に応募してみても。観光協会では、他にも開花状況テレホンサービスやホームページによる開花情報の発信などもしている。癒しのひとときを与えてくれるひまわり畑を背景に、毎年たくさん笑顔が撮影される「ひまわりまつり」。夏の恒例イベントとして、ぜひ足をお運びください。

《開催期間》

- 栗原会場：7月下旬
 - 座間(新田宿・四ツ谷)会場：8月中旬～下旬
- 《主催》座間市観光協会
《共催》座間市、座間市ひまわり推進協議会
《問合せ》TEL 046(205)6515



澤田さんのハウス栽培の相棒である元気なミツバチたち。



座間市ひまわり推進協議会 会長 澤田 富美雄氏



大きくて甘いイチゴを育てるため、毎日のように手摘みで剪定を行います。